



# 津幡南中だより

津幡町立津幡南中学校

校長 田中 宏志 TEL288-7420

令和6年7月19日(金) NO.5

校訓

☆燃えるような情熱

☆ひたむきな純粋さ

☆たゆみない向上心



## 「ふしめ」と「せつもく」

校長 田中 宏志

1学期という「節目」が終わり、明日から夏休みとなります。みなさんは、約40日という夏休みをどう過ごす予定ですか？

夏休みを迎えるにあたり、みなさんにお願いしたいことがあります。それは、

- ・ 1学期をしっかり振り返り、できたこと、できなかったことを整理し、2学期に向けての自分なりの目標をたてること
- ・ しっかりと充電して疲れをとること
- ・ 自分のやりたいことにチャレンジすること
- ・ 命を大切にすること

です。以上のことに取り組むことで、みなさんのそれぞれの中学校生活に強い「節目」が作られ、確かな力がついていくのです。「節目（ふしめ）」とはもともと「竹や木のふしめ」の意味で使われていました。竹は節目を作ることによって強くなり、ぐんぐん成長する植物です。そして、私たちの人生をこの「竹の節目」にたとえ、人生の様々な場面での区切りや転機を成長の機会として「節目」と言うようになったのです。



将棋の最年少プロである藤井 聡太氏が、公式戦通算50勝達成した時のインタビューで、「一局一局指してきたのが、節目（せつもく）の数字となりました。」と振り返りました。なぜ「節目（ふしめ）」とは言わず「節目（せつもく）」と表現したのでしょうか？「節目（ふしめ）」と「節目（せつもく）」はおおむね同じような意味合いの熟語ですが、両者には微妙にニュアンスの違いがあります。「節目（せつもく）」と読む場合は、「小分けした一つ一つの箇条、細目」という意味があり、「節目（ふしめ）」よりも細かい区切りを指すと言います。藤井聡太五冠がこのニュアンスの違いを認識していたとすると、「50勝目は人生の大きな区切りではなく、まだまだ続く将棋人生の小さな通過点に過ぎない」と答えたこととなります。

みなさんの津幡南中学校の日々の活動も同じです。小さな「節目（せつもく）」を一つ一つ積み重ね、大きな「節目（ふしめ）」を作り、強くたくましい津幡南中学校で学ぶ生徒を、校長先生は育てていきたいと思っています。そのために必要なことを、校長先生からのお願いという形で最初に書きました。1学期を振り返ること、疲れをとり充電すること、時間を大切に、いろいろなチャレンジをすること、命を大切にすることは、みなさんにとって大切な「節目（せつもく）」であり、それに取り組むことで強い「節目（ふしめ）」を作るのです。この夏休みを有意義に過ごしてください。そして、9月の始業式に成長したみなさんと元気に会うことができ、2学期を迎えられることを楽しみにしています。

## 保護者の皆様へ

学校現場では今、GIGA構想により、1人1台のデジタル端末を活用した授業が展開されています。これから先、さらにその効果的な活用が求められています。生まれた時から、ネットがあるのは当たり前のデジタルネイティブ世代の子どもたちは、私たち大人の感覚をあっという間に越えていってしまいます。

創造性豊かな子どもたちの可能性を伸ばすために、私たち大人は少し視点を変えてICTの世界と向き合っていかなければなりません。私たち大人は「モラルパニック」に陥っていると言われていいます。「モラルパニック」とは、不安の高まりの結果、携帯電話の害悪を訴えて携帯電話を子どもから取り上げたり、携帯電話販売を禁止したり、携帯電話サイトを一律閉鎖したりする動きのことをいいます。(ネット記事参照) 私たちは、この

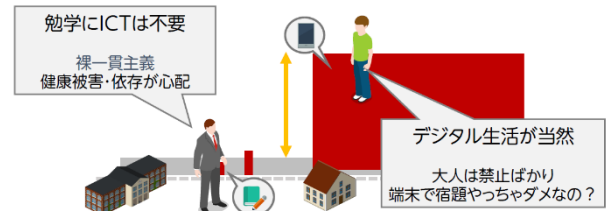
「モラルパニック」と向き合い、子どもたちとの間にあるデジタル・デバイドの解消を図る必要があります。こうしたなかで近年注目されているのが、デジタル社会における善き社会の担い手を目指す「デジタル・シティズンシップ教育」です。「シティズンシップ」は「この世界を生きる“市民”の一人として、どのような資質・能力が必要か、どのように振る舞うことが“善い”ことなのかを考えること」といえます。こうした考え方をふまえて、デジタルツールを用いて責任ある市民として社会に参加するための知識や能力が「デジタル・シティズンシップ」であり、それを学ぶのが「デジタル・シティズンシップ教育」です。「デジタル・シティズンシップ」の指導として次の5点が挙げられています。

- 1 デジタルコミュニケーションの積極的な道具的社会的意義を認めること
- 2 学習者の自律と課題解決を促すこと
- 3 子どもたちが直面するデジタルジレンマへの共感と真正の問いがあること
- 4 実態に即した幅広い発達視点で構成すること
- 5 統合的・合理的指導法を選択すること

津幡南中学校で学ぶ子どもたちに確かな力をつけさせるために、私たち大人も時代にあった学びを積み重ねる必要があります。「デジタル・シティズンシップ」教育については、学校でも校内研修で取り上げていこうと考えています。保護者の皆様には、総務省のHPにあります「家庭で学ぶデジタル・シティズンシップ」を紹介いたします。お時間があるときにご覧いただき、デジタル端末の使い方について、お子様とお話しいただければ幸いです。

### 2つのデジタル・デバイス解消が急務

①学校・家庭間のデバイス/②大人・子ども世代間のデバイス(モラルパニック)



「GIGA スクール構想に基づく1人1台端末の円滑な利活用に関する調査協力者会議資料より一部抜粋」



「総務省：「家庭で学ぶデジタル・シティズンシップ」より一部抜粋」